2017 年

防災訓練通信

今年も多くの災害がありました。みなさんの身近なことで言えば、10 月中旬から大雨が降り続き、10 月 22 日には大和川が氾濫（はんらん）（川があふれだすこと）になりかけて、学校などに避難した人もいたと思います。避難訓練の時期に合わせて、防災に関する意識を高めていきましょう。

昨年度は、『本気でやろう　避難訓練』をテーマに、２，３年生は取り組んでもらいました。そこで、昨年度のアンケート結果と消防署の方からのコメントを改めて紹介します。

アンケート結果より

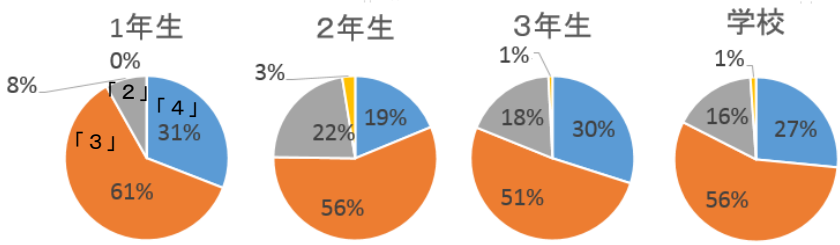
評価の仕方（４段階）

「４」　「３」　「２」　「１」

できた　←　できなかった

１．テーマ、目標を意識して取り組んだ。

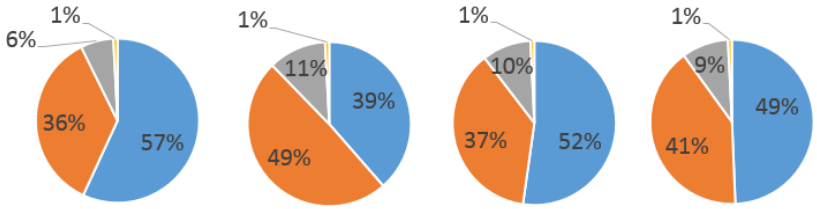
80%以上の生徒がテーマや目標を意識して、訓練に取り組めたことがわかります。
２中生は防災に対して意識が高いです。



２．避難訓練の結果について

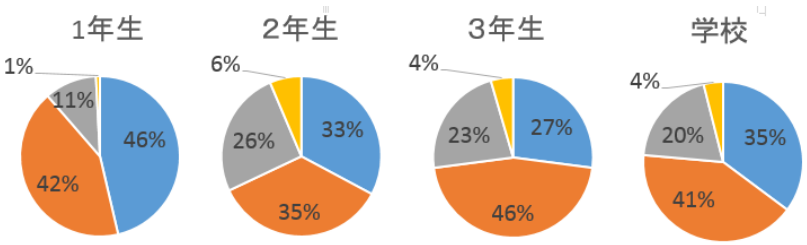
①防災訓練通信を読んで、避難訓練をきちんとする気になった。

学校全体で、50%以上の生徒が「４：できた」と答え、90%の人が「３」以上の回答でした。
防災訓練通信を読むことによって、真剣に取り組めたようなので、来年も実施したいと思います。



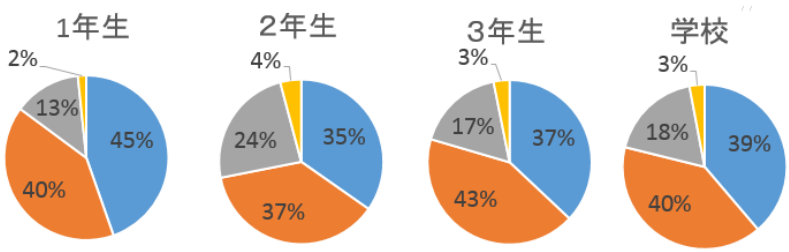
②机の下に隠れたときに、静かにしていた。

「２」を回答した生徒が他の問いよりも多いのが分かります。



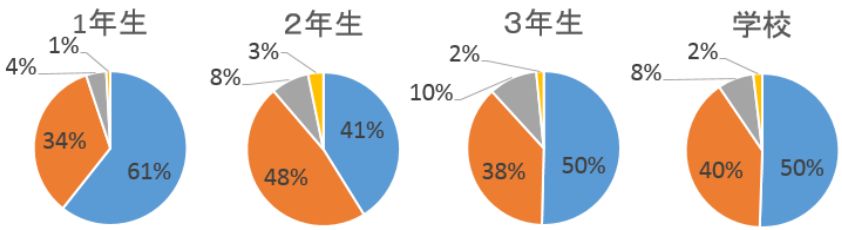
③静かに避難していた。

基本的には静かに避難できています。ただ、「２」を回答した生徒が他の回答より多いです。



④集合時に静かにしていた。

90%の生徒が「３」以上の回答をしており、集合時



次に消防署の方のコメントをお伝えします。

火災が発生して、人員点呼が終わるまでの避難時間が４分だった。
この記録は早い方です。ただ注意することもあります。
１つ目は、全体的に良くできていたけれども、「しゃべっていた人」がいた。
２つ目は、避難するときは、全力疾走の「ダッシュ」ではなく、軽く走る方が良いです。本当の火災の場合は、パニックになり、こけてしまうなどの怪我の危険性が高まるからです。

これらのことに注意して、今年の避難訓練のテーマと目標を発表します。

テーマ　：『知って命を守る　避難の力』
目標は　：『より良い避難方法を知って、避難訓練に真剣に取り組む』

明日からは、松原市で起きた災害について知るなど、毎日通信をお送りしていきます。

2017 年

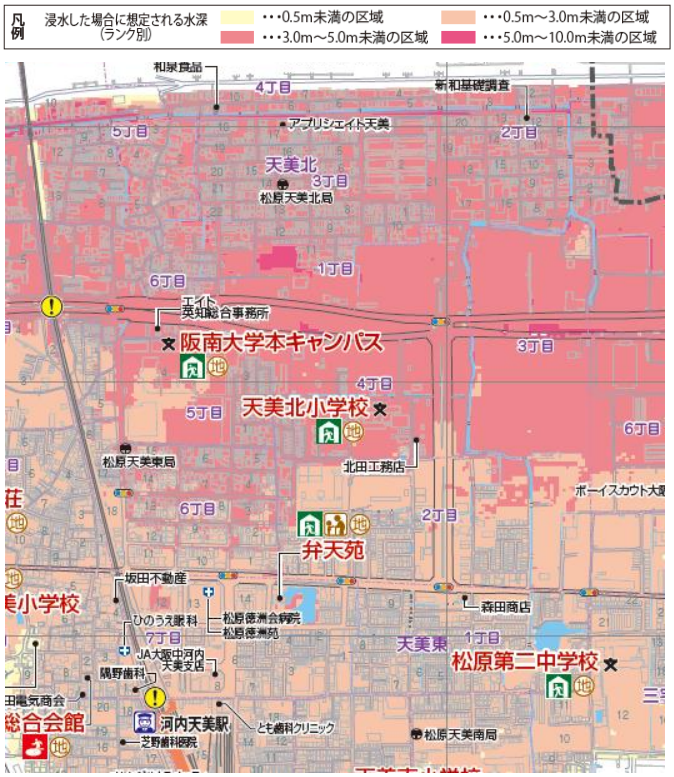
防災訓練通信

まずひくく DROP!　あたまをまもり COVER!　うごかない HOLD ON!

歴史は繰り返される。想定外は想定内。

10 月 20 日～23 日にかけて、超大型の台風 21 号の影響があり、関西地域ではとてつもない大雨が降りました。大和川の水位もどんどん上昇し、22 日の夜中に避難した人もいると思います。

　ちなみに、大和川の氾濫は、大和川流域の 12 時間総雨量 が 316mm 超えた場合を想定おり、今回の 20 日～23 日までの大阪府内での総雨量は、200～280 ㎜ほどまでいっていたようです。あと１日、大雨が降り続けば大和川は氾濫していたかもしれません。
もし、大和川が氾濫すると、どうなるか。みなさんは知っているかもしれませんが、下のようになります。



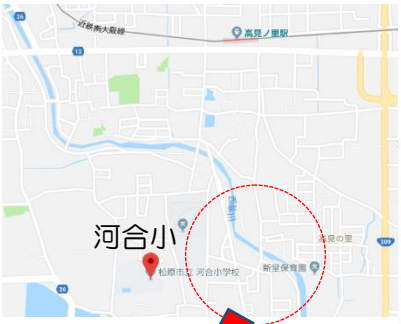
松原総合防災ガイドマップより

　松原市総合防災ガイドマップによると大和川が氾濫した場合、天北校区では多くの地域が、3.0～5.0mの浸水が発生し、この二中でも、0.5m～3.0mの浸水が発生します。

　このことを考えると、今回の大雨もあと少しのところで、助かったという感じがします。

しかし、過去、一度も松原市が水害にあわなかったわけではありません。今から 35 年前の 1982 年８月２日～3 日にかけて通過した台風 10 号の影響により、松原市では西除川が氾濫し、この２日間での総雨量は、柏原市で 291 mmで今回よりも激しいことがわかります。

この時の被害は、堺市、松原市あわせて浸水面積 78 ヘクタール（約 900m×900m の範囲）、浸水家屋 3,000 戸余という大きな被害が発生しました。２つの写真を見てもらいます。１つ目は、高見の里駅の南側と、２つ目は天美西小学校付近の地図の当時の写真があります。どうですか、分かりますか。１ つ目の写真は西除川が激流で川なのか道路なのか分かりません。２つ目の写真は西除川と大和川がもういっしょになっていますね。



35 年前なので、この状況を体験された先生もいらっしゃいました。当時、小学生だった山下先生に聞いてみました。

昼から雨が降り続け、家族とこれはすごい雨だというお話をされていたそうです。そして、お家の裏の用水路がみるみるうちに、増えていき、用水路と道路の境目が分からなくなったそうです。そして、家に浸水しそうということで、１階の家具を２階にあげていたそうです。しばらくすると、西除川にかかっていた高木橋（現在もあります）が西除川の激流に耐え切れず、流されていったそうです。その後、西除川は大雨が降っても大丈夫なように、コンクリートでの工事が行われて現在の姿になったそうです。昔は、西除川に河川敷があり、公園なんかもあったそうですが、全部なくなったそうです。

このように、今回の大雨のようなことは過去に実際に発生していて、実は想定外の雨は意外と降る可能性があるということです。次回の防災訓練通信では、大雨の時の避難で気を付けることをお伝えしたいと思います。

2017 年

防災訓練通信

水害の威力は、油断できない

2009 年に発生した台風 21 号は、日本列島に大きな被害をもたらしました。特に兵庫県は被害が大きく、兵庫県西・北部豪雨とも呼ばれています。

２００９年８月９日、兵庫県佐用町は**２４時間雨量３２６．５ミリ（10 月 22 日の雨より短時間でより大量の雨が降っている）**の観測史上最大の雨量を記録し、勢いを増した濁流が護岸内側をえぐり、この集中豪雨で佐用町だけで死者行方不明２０名、全半壊８棟、床上浸水７７４棟、床下浸水５７９棟、落橋１４箇所などの大惨事に発展した。

被害者が注意すべきは夜間の避難だった。

３世帯９人が**用水路**に流された。佐用町は９日午後９時２０分ごろ、全町民に避難勧告を出したが、避難経路などは指定していなかった。９日午後１１時ごろ、冠水のため用水路との境が見えない道路を避難中に濁流にのまれたらしい。

避難所の小学校小は住宅から川を隔てた約１５０㍍北東の高台にある。３世帯は濁流に足を取られ、用水路に流されたという。用水路は普段は水深１０㌢ほどだが、当時は腰辺りまで冠水していた。

2015 年鬼怒川氾濫での自衛隊救助活動

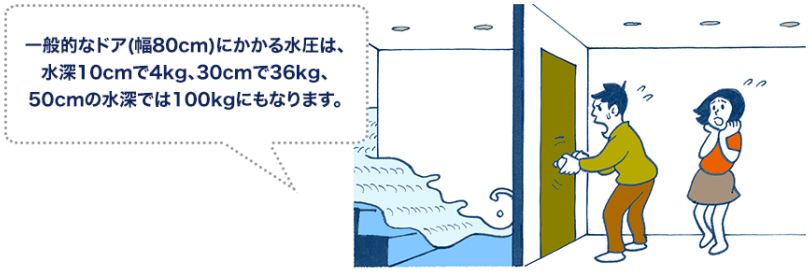
夜間で、大雨の中を腰あたりまで水のある状態での避難は右のような写真ぐらいになる。例えば、松原市内が冠水して腰のあたりまで水があり、しかも夜で大雨で避難するっと想像してみてください。みなさんはちゃんと避難所まで避難できるでしょうか。

←↓どこの町にでもあるような用水路

命に関わる水の力と動き（NHKそなえる防災より）

身近にある水だが、注意しなければならない。水の力を知りましょう。
水の力は、「水の深さ(水深)」と「水の流れの速さ(流速)」で変化します。

水深が50cmを超えるとドアは開かない



具体的な避難方法を次にお伝えします。
1 基本的には、夜中大雨が予想されるときは、夕方までに避難する。
２状況に応じて、避難方法を変える。

水平避難と垂直避難

災害では早めの避難が重要です。ただし、すでに避難経路が浸水しているなど、危険が間近に迫っている状況での無理な避難行動はできるだけ避けなければなりません。そのような場合は、避難場所への移動（水平避難）だけでなく、家屋倒壊等の危険性がない区域では近隣ビルの高層階や自宅の3階といった高い場所への移動（垂直避難）を行い、救助を待つという判断も必要です。

３それでも洪水の中避難する場合は下のことを守る。

1 はき物

裸足・長靴は禁物。
ひもでしめられる運動靴がよい。

2 ロープでつながって

はぐれないようにお互いの体をロープで結んで避難しよう。とくに子供から目を離さないように。

3 足元に注意

水面下はどんな危険が潜んでいるのかわからない。
長い棒を杖がわりにして安全を確認しながら歩くこと。

4 子供やお年寄りを安全に

お年寄りや病人などは背負う。
幼児は浮き袋、乳児はベビーバスを利用して安全を確保する。

防災訓練学習４

2017年

防災訓練通信

よく使われる『防災』という言葉ですが、最近は『減災』という言葉が使われるようになっています。

減災：被害を最小限に抑えるのが目的

防災：被害を出さないようにするのが目的

それまで災害に対しては、あくまで被害を出さないようにするための「防災」という対策が主な取り組みでした。しかし、いざその災害が発生するとこの防災力を上回る被害が起きてしまい、被害を完全に防ぐという事は不可能であると明白になりました。
ということを考えると、私たちが今、何をしていかないといけないかが分かってくるような気がします。
昨日、お伝えした兵庫県佐用町の水害に関して、次の記事がありました。

母、姉、弟の慰霊碑前にようやく立てた　男子高校生　今夏、東北の被災地で初のボランティア活動（2015.7.28 産経ＷＥＳＴ）

悩んだときは家族の名前が刻まれた慰霊碑（いれいひ）の前に立つという小林竜太さん。
　兵庫県佐用町で平成２１年８月、住民ら２０人が犠牲になった豪雨災害で家族３人を失った県立佐用高３年、小林竜太さん（１８）が今夏、復興支援ボランティアとして初めて東日本大震災の被災地に入った。６年前の悲しみがよみがえりそうで避けてきたが、消防士になる目標が背中を押した。「亡くなった家族の分までしっかり生きたい」。少しずつだが、つらい過去に向き合えるようになってきた。

思い出すとしんどい

　２１年８月９日夜。降り続いた豪雨により増水した用水路で、避難途中の母の佐登美さん＝当時（４０）▽長姉の彩乃さん＝同（１６）▽弟の文太君＝同（９）＝が流され、母と長姉は遺体で見つかった。一緒に流されながらも救助された次姉（１９）と、祖父母宅にいて無事だった竜太さんが残された。幼い頃に父親を亡くしていた２人は、祖父の武さん（７４）と祖母の文子さん（６８）と生活するようになった。

だが、文太君だけは行方不明のままで、２３年３月に死亡手続きがとられても現実を受け入れられなかった。「思い出すと、悲しくてしんどいから」と、当時のことを考えないように心がけた。毎年、８月９日が近づくと新聞やテレビから目を背け、取材も断った。

地域に恩返ししたい

佐用高は２３年３月の東日本大震災後、被災地での復興支援ボランティアを毎年続けている。１、２年のころ、文子さんに勧められたが、「部活が忙しい」とはぐらかしていた。被災地に行くとどうしても家族を思い出す。それが怖かった。
ただ、最終学年になり、卒業後の進路を考えるようになると、心境に変化が出てきた。

豪雨災害では、泥かきや流木の撤去など大勢の人が支援してくれた。そんな姿に、小学６年だった竜太さんは「消防士になって地域に恩返しをしたい」と思った。中学、高校に進学しても、その気持ちは変わらなかった。

目を背けてきたあの日のことを調べた。家族はなぜ流され、どんな被害を受けたのか。知ることはつらかったが、家族の死とようやく向き合い、気持ちを整理できた。

「今年はボランティア、申し込んどいたから」。祖父母に伝えると声が返ってきた。

「それがええ」

みんながいてくれる

今月１０日、初めて東北の被災地に入った。宮城県南三陸町では、避難所になった高台の学校にまで津波が押し寄せたことを聞き、足が震えた。宮城県石巻市では仮設住宅の周辺に佐用から持ち込んだ花を、被災した地元の高校生らと一緒に植えた。「みんな元気そうに見えるけど、つらいこともあるんやろうな」。自分の姿と重なった。

豪雨災害からまもなく６年。これまで自ら口を開くことのなかった家族について話せるようになってきた。

とはいえ、悩んでしんどくなって、泣きそうになることもある。そんなときは家族が流された場所にある慰霊碑の前に立つ。かつては近づくのも嫌だった場所だが、「ここには、みんながいてくれるような気がする」。
消防士への夢はふくらむ一方、東北での体験を通して被災地で困っている人たちの生活をサポートする活動にも関心が出てきた。

「しんどそうにしてたら、天国の家族から笑われる。生かされた分を、しっかり生きていきたい」。力強く、そう誓った。

という記事でしたが、現在、小林さんは消防士として働かれているそうです。地震や大雨に限らず、いつ、起きるかわからない災害は私たち人に大きな被害をもたらし、時には家族や友人、または自分自身の命をうばいます。これは事実ですし、今後誰かの身に起きる未来のことです。その未来の悲劇をなるべく小さくできるのは、他でもないみなさんだと思います。訓練は一体何のためにあるのか。誰のためにあるのかを考えて参加ほしいです。

2017年

防災訓練通信

まずひくく DROP! あたまをまもり COVER! うごかない HOLD ON!

【テーマ】

『知って命を守る　避難の力』

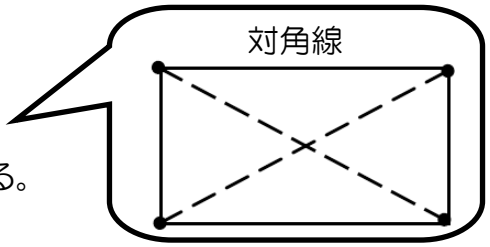
【目標】

『避難時、集合時に一切話し声が聞こえなさい』

いま、地震が発生したら・・・

まず身を守る

○机の下などにかくれる。
　　→頭から入って机の対角線の足を持つ。
○カバンなど、手に持っているもので頭を守る。
○身を低くしてかがむ。



強いゆれがおさまったら

落ち着いて避難

○他の人をおさない。
○あわてて走らない。
○必要なこと以外話さない。→必要な情報を聞き逃す危険性。
○大切なものがあっても、取りにもどらない。

外に出たら

○クラスで整列して、座る。
○全員がそろっているか確認する。
○勝手に探しに行かない。

下校するとき

○勝手に帰らず、先生の指示で待つ。
○帰宅途中、危険がある所には近づかない。

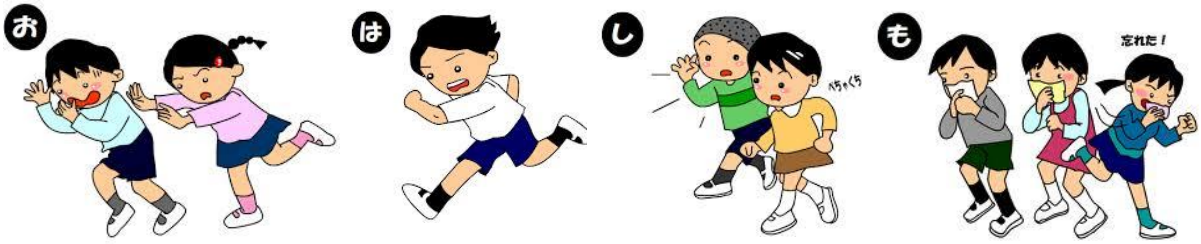
２０１７年１２月５日（火）

生徒避難、退避上の注意事項

避難の４原則　【おはしも】

おさない、はしらない、しゃべらない、もどらない

〇校舎内で、走らない。
〇必要以上に口を開かず、しゃべらない。
〇落ち着いて、けがをしないように気をつける。
〇学用品は持たない、取りに戻らない。
〇スリッパのまま外に出る。
〇前を行く人が転倒したら、右手を高くあげる。
　→右手があるのが見えたら、押さないで待つ。
◎火災の場合は、ハンカチなどで口をふさぎ、姿勢を低くして動く。
〇地震の場合は、出入り口、窓などは開け放し、指示があるまで机の下に避難し、
　むやみに校舎の外へ飛び出さない。
〇運動場に出れば、かけ足で所定の場所に集合、整列する。
　※スリッパでこけることもあるので、全力疾走ではない。
〇避難のとき、カーテンはあけておく。



【避難時の生徒の役割】

４原則を、絶対に守ること！！